「思いやりは言葉になり、行動となる」

校長　石田　雄介

今年もあと一か月。学校はまもなく冬休みを迎えます。この秋は幸いなことにコロナ禍が少し落ち着き、充実感のある教育活動が継続しています。子どもたちには、互いに「やさしいＫ」をかけ合う心温かで楽しい生活をしてほしいと願っています。

１２月の「人権週間」では、各学級で同和教育、人権教育にかかわる授業を行います。人が人をいじめたり差別したりすることの愚かさ、人が人を支えることの大切さや素晴らしさについて考え合います。いじめや差別を見逃さない、許さない子どもへと育てていく全校取組の一環です。

子どもたちの生活の中でのトラブルは言葉によるものが多く、いわゆるロゲンカは相手を思いやる気持ちが足りなかった言葉から起こりやすいものです。ですから、子どもたちの日常の**言葉遣い**（Ｋ）には、より高い意識を持つように働きかけていきます。

行動宣言をしてくれた子どもたちへ：

自分の周りの人に、思いやりの心で接することができていますか。
「思いやり」とは、「思いをやる」、つまり、
「相手を大切にする思い」を「相手に向け、届ける」こと。
だから、本当の思いやりは、言葉になり、行動となります。
反対に、思っているだけで言葉や行動にしなければ、相手に思いは伝わりません。

あなたの優しい思いを、言葉や行動に表しましょう。
何でもないことでも、「ありがとう」と相手に思いを伝えることで、心が温まり、
お互いにとても気持ちよくなり、笑顔が生まれます。そのひと言が大切です。
「思いやりは目に見え、耳に聞こえる」のです。

児童会・企画委員会の子どもたちが主催してくれた「いじめ見逃しゼロスクール集会」で、すべての学級で、いじめを見逃さず優しい気持ちを持つ行動宣言をした子どもたち。私は、「一人一人がやさしいＫを１０個見つけ、その言葉をどんどん友達にかけていこう」と呼びかけました。優しい気持ちのある言葉や行動は相手がうれしいだけでなく、その言葉をかけた自分自身の心も温かくする力を持っているからです。

学校の教育活動の重点取組の一つに、「ふわふわ言葉をかけよう」を掲げています。今、各学年の「ふわふわ言葉の木」は、友達の優しさを見つけた子が付けた実で、いっぱいになっています。心が温かくなる人間関係を築いていくため、職員も子どもも一緒になり、全校体制で「ありがとう」の声をかけ合い、教育活動を続けてまいります。